

1. 科目名 (単位数)	教育人間学特論 (2 単位)	3. 科目番号	EDMP5232
2. 授業担当教員	石崎 達也		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし		
7. 講義概要	<p>本講義は、「人間とは何か」「なぜ人間には教育が必要なのか」という根源的な問いについて、教育人間学的な視点から深く考察することを目的とする。まず、教育人間学がどのような学問領域であるかを理解するため、教育と人間をめぐる諸問題について、受講者間でのディスカッションを通じて問題意識を共有する。次に、教育人間学のテキストを精読する。そして、受講者各自が、本講義を通じて得た知見に基づき、教育人間学における独自の「問い」を設定し、文献研究や探究活動を行い、その成果をレポートまたは口頭発表の形式でまとめることを目指す。</p> <p>教育人間学の学びにおいては、「私とは何か」という自己探求の問いを出発点とし、そこから「人間とは何か」という普遍的な問いへと至る思索のプロセスが重要である。したがって、本講義を履修するにあたっては、教育や人間に関わる様々な「問い」に対して、常に当事者意識をもち、深く考察する主体的・批判的な姿勢が求められる。</p>		
8. 学習目標	<p>1.教育人間学という学問領域、教育と人間をめぐる諸問題について、自身の言葉で説明することができる。</p> <p>2.教育人間学に関する専門的なテキストを精読し、学術的な視点から独自の「問い」を設定できるようになる。</p> <p>3.自ら設定した「問い」に基づき、適切な方法論を用いて自律的な探究活動(文献研究等)を行い、その成果を発表できるようになる。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	テーマごと的小レポート課題 (1,000 字程度)、テキストに関するワークシート課題、中間・期末レポート課題 (2,000～4,000 字程度) を課す。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】高橋勝『経験のメタモルフォーゼ—〈自己変成〉の教育人間学』、勁草書房、2007。</p> <p>【参考書】西平直『教育人間学のために』、東京大学出版会、2005。</p> <p>高橋勝『応答する〈生〉のために—〈力の開発〉から〈生きる歓び〉へ』、東信堂、2019。</p> <p>高橋勝編著『子ども・若者の自己形成空間—教育人間学の視線から』、東信堂、2014。</p> <p>Chr.ヴルフ(高橋勝監訳)『教育人間学入門』、玉川大学出版部、2001。</p> <p>臨床教育人間学会編『リフレクション—臨床教育人間学、第2巻』、東信堂、2007。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>1.教育人間学という学問領域、教育と人間をめぐる諸問題について、自身の言葉で説明できるようになったか。</p> <p>2.教育人間学に関する専門的なテキストを精読し、学術的な視点から独自の「問い」を設定できるようになったか。</p> <p>3.自ら設定した「問い」に基づき、適切な方法論を用いて自律的な探究活動(文献研究等)を行い、その成果を発表できるようになったか。</p> <p>○評定の方法</p> <p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <p>1. 積極的参加度(参加意欲、発言、発表等) 総合点の30%</p> <p>2. レポート(小レポート・中間・期末課題を含む) 総合点の70%</p> <p>上記の他に、本学の規定に定められている3/4以上の出席が単位の取得条件であることも配慮する。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	「私」という個性が、誰かと出会い、共に生きる。その営みの中心にあるのが「教育」という事象です。本講義では、教育人間学の世界を通して、人間としてのあり方を深く思索する場を共に創り上げていきます。提示された知識を吸収するだけでなく、自ら問いを立て、その問いの先にある世界と一緒に探究してみませんか。		
13. オフィスアワー	講義の中で通知する。		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	オリエンテーション / 教育人間学とは何か		
【学習の目標】	教育人間学を学ぶことの意味を理解し、自分の言葉で語るようになること。		
【学習の内容】	教育人間学の学問的意義、その重要性、および現代的展望について体系的に学習する。		
【キーワード】	教育・人間形成・身体・心・出会い・死と再生		
【学習の課題】	教育人間学に興味を持った点やこれから本講義を通して学びたいことに関する小レポートを作成する。		
【参考文献】	西平直『教育人間学のために』、東京大学出版会、2005。		
【学習する上での留意点】	「人間とは何か」「私とは何か」「教育とは何か」という正解のない問いに対し、自ら思考を深め、真摯に探究し続ける姿勢が求められる。		
2. テーマ	教育と幸せをめぐる問い①		
【学習の目標】	教育と幸せをめぐる問いに対して、テキストや映像資料もとに深く考察することができるようになること。		
【学習の内容】	「野生児」研究(アヴェロンの野生児、アマラとカマラなど)の多様な解釈について学習する。 テキストの精読を通して、批判的思考力・論述力を養う。		
【キーワード】	狼に育てられた子・アヴェロンの野生児・発達と教育・遺伝と環境・生得説と経験説		
【学習の課題】	野生児の資料を通して、感じたり考えたりしたことについて、小レポートを作成する。		

【参考文献】 イタル(中野善達・松田清訳)『新訳 アヴェロンの野生児-ヴィクトールの発達と教育』、福村出版、1978。

【学習する上での留意点】 野生児の事例を通して、近代社会や教育制度に対して、批判的なまなざしで見つめ直す姿勢が求められる。

3. テーマ	教育と幸せをめぐる問い②
【学習の目標】	教育と幸せをめぐる問いに対して、テキストや映像資料もとに深く考察することができるようになること。
【学習の内容】	「野生児」研究（アヴェロンの野性児ビクトールやアマラとカマラなど）の多様な解釈について学習する。 テキストの精読を通して、批判的思考力・論述力を養う。
【キーワード】	狼に育てられた子・アヴェロンの野生児・発達と教育・遺伝と環境・生得説と経験説
【学習の課題】	野生児の事例から「教育」の意味について考察した小レポートを作成する。
【参考文献】	イタル（中野善達・松田清訳）『新訳 アヴェロンの野生児-ヴィクトールの発達と教育』、福村出版、1978。
【学習する上での留意点】	野生児の事例を通して、近代社会や教育制度に対して、批判的なまなざしで見つめ直す姿勢が求められる。
4. テーマ	教育と学校をめぐる問い①
【学習の目標】	現代社会における教育と学校をめぐる問いに対して、テキストや映像資料もとに深く考察することができるようになること。
【学習の内容】	「学歴社会」や「受験勉強」の問題について、批判的に検討する。 テキストの精読を通して、批判的思考力・論述力を養う。
【キーワード】	学歴社会・受験勉強・思春期・体罰・いじめ・自殺・不登校
【学習の課題】	現代社会における教育と学校の問題について、各自の体験をふまえた小レポートを作成する。
【参考文献】	西平直『教育人間学のために』、東京大学出版会、2005。
【学習する上での留意点】	自らの学校体験をもとに現代の学校教育制度を批判的に考察する姿勢が求められる。
5. テーマ	教育と学校をめぐる問い②
【学習の目標】	現代社会における教育と学校をめぐる問いに対して、テキストや映像資料もとに深く考察することができるようになること。
【学習の内容】	イリイチの「脱学校論」について学習する。 テキストの精読を通して、批判的思考力・論述力を養う。
【キーワード】	イリイチ・学校化（Schooling）・隠れたカリキュラム（Hidden Curriculum）・自立共生（Conviviality）
【学習の課題】	イリイチの「脱学校論」を学び、各自が考えたことについて小レポートを作成する。
【参考文献】	イリイチ, I（東洋・小澤周三訳）『脱学校の社会』、東京創元社、1977。
【学習する上での留意点】	自らの学校体験をもとに現代の学校教育制度を批判的に考察する姿勢が求められる。
6. テーマ	教育といのちをめぐる問い
【学習の目標】	教育といのちをめぐる問いに対して、資料をもとに深く考察することができるようになること。
【学習の内容】	いのちをめぐる経験を振り返り、いのちをめぐる絵本を通して、いのちの教育について深く考察する。 テキストの精読を通して、批判的思考力・論述力を養う。
【キーワード】	生と死の教育・死への準備教育（Death Education）・いのちの大切さを考える絵本・動物絵本・生命倫理
【学習の課題】	いのちをめぐる絵本の読み聞かせを聞いて、各自が考えたことについて小レポートを作成する。
【参考文献】	佐野洋子作・絵『100万回生きたねこ』、講談社 1977。 スーザン・パーレイ作・絵（小川仁央訳）『わすれられないおくりもの』、評論社、1986。
【学習する上での留意点】	自らのいのちをめぐる体験をもとに、いのちの教育について深く考察する姿勢が求められる。
7. テーマ	おとな / 子どもを問い直す①
【学習の目標】	おとな / 子どもの問いに対して、テキストや映像資料もとに深く考察することができるようになること。
【学習の内容】	『星の王子さま』を通して、おとな / 子どもの問いを深く考察する。 テキストの精読を通して、批判的思考力・論述力を養う。
【キーワード】	おとならしさ・子どもらしさ・自立と自律・発達段階論
【学習の課題】	『星の王子さま』を通して、各自が考えたことについて小レポートを作成する。
【参考文献】	サン=テグジュベリ（内藤濯訳）『星の王子さま』、岩波書店、2017。
【学習する上での留意点】	「おとなとは何か?」「おとなになるとはどういうことか?」と問いを深く考察する姿勢が求められる。
8. テーマ	おとな / 子どもを問い直す②
【【学習の目標】	おとな / 子どもの問いに対して、テキストや映像資料もとに深く考察することができるようになること。
【学習の内容】	おとなになることをめぐる問いを深く考察する。 テキストの精読を通して、批判的思考力・論述力を養う。
【キーワード】	青年期・アイデンティティ・親子関係・孤独と連帯
【学習の課題】	『大人になることのむずかしさ』を通して、各自が考えたことについて小レポートを作成する。
【参考文献】	河合隼雄『大人になることのむずかしさ』、岩波書店、2014。
【学習する上での留意点】	「おとなとは何か?」「おとなになるとはどういうことか?」という問いを深く考察する姿勢が求められる。
9. テーマ	教育と人間関係をめぐる問い①
【学習の目標】	人間関係について、相克性と相乗性という観点から深く考察することができるようになること。
【学習の内容】	相克的な関係と相乗的な関係について深く考察する。 テキストの精読を通して、批判的思考力・論述力を養う。
【キーワード】	相克性・相乗性・人間関係
【学習の課題】	『おおきな木』を通して、各自が考えたことについて小レポートを作成する。
【参考文献】	シエル・シルヴァスタイン（村上春樹訳）『おおきな木』、あすなろ書房、2010。
【学習する上での留意点】	自らの体験をもとに、人間関係について相克性と相乗性という観点から深く考察する姿勢が求められる。
10. テーマ	教育と人間関係をめぐる問い②

	<p>【学習の目標】もつこと（所有）とあること（存在）めぐる問いに対して、テキストや映像資料もとに深く考察することができるようになること。</p> <p>【学習の内容】E.フロムの思想について学習する。 テキストの精読を通して、批判的思考力・論述力を養う。</p> <p>【キーワード】フロム・経験・幸福・愛・創造性・</p> <p>【学習の課題】E.フロムの思想を通して、各自が考えたことについて小レポートを作成する。</p> <p>【参考文献】フロム, E. (佐野哲郎訳) 『生きるということ』、紀伊國屋書店、2020。</p> <p>【学習する上での留意点】自らの体験をもとに、もつこと（所有）とあること（存在）めぐる問いを深く考察する姿勢が求められる。</p>
11. テーマ	教師と生徒の関係性をめぐる問い①
	<p>【学習の目標】教師と自己変容について、テキストや映像資料もとに深く考察することができるようになること。</p> <p>【学習の内容】『奇跡の人』を通して、教師と生徒の関係性について深く考察する。 テキストの精読を通して、批判的思考力・論述力を養う。</p> <p>【キーワード】ヘレン・ケラー・アン・サリバン・教師-生徒関係・言語の獲得・コミュニケーション論</p> <p>【学習の課題】『奇跡の人』を通して、ヘレン・ケラーをめぐる人間関係について考察した小レポートを作成する。</p> <p>【参考文献】サリバン(榎恭子訳) 『ヘレンケラーはどう教育されたか-サリバン先生の記録』、明治図書、1995。</p> <p>【学習する上での留意点】自らの体験をもとに、教師-生徒関係のあり方を深く考察する姿勢が求められる。</p>
12. テーマ	教師と生徒の関係性をめぐる問い②
	<p>【学習の目標】教師と生徒の関係性について、テキストや映像資料もとに深く考察することができるようになること。</p> <p>【学習の内容】『奇跡の人』を通して、教師と生徒の関係性について深く考察する。 テキストの精読を通して、批判的思考力・論述力を養う。</p> <p>【キーワード】ヘレン・ケラー・アン・サリバン・教師-生徒関係・言語の獲得・コミュニケーション論</p> <p>【学習の課題】ヘレンとサリバン先生との関係を通して、教師と生徒の関係性について考察した小レポートを作成する。</p> <p>【参考文献】サリバン(榎恭子訳) 『ヘレンケラーはどう教育されたか-サリバン先生の記録』、明治図書、1995。</p> <p>【学習する上での留意点】自らの体験をもとに、教師-生徒関係のあり方を深く考察する姿勢が求められる。</p>
13. テーマ	教育と他者理解をめぐる問い①
	<p>【学習の目標】人が人を理解することをめぐる問いについて、テキストや映像資料をもとに深く考察することができるようになること。</p> <p>【学習の内容】精神分析の理論や臨床家の実践を通して、人が人を理解することについて深く考察する。</p> <p>【キーワード】エリクソン・転移 / 逆転移関係・訓練された主観性</p> <p>【学習の課題】精神分析の理論や臨床家の実践を学び、人が人を理解することについて考察した小レポートを作成する。</p> <p>【参考文献】西平直『教育人間学のために』、東京大学出版会、2005。</p> <p>【学習する上での留意点】自らの体験をもとに、人が人を理解することについて深く考察する姿勢が求められる。</p>
14. テーマ	教育と他者理解をめぐる問い②
	<p>【学習の目標】人が人を理解することをめぐる問いについて、テキストや映像資料をもとに深く考察することができるようになること。</p> <p>【学習の内容】〈出会い〉に関するエッセイを通して、人が人を理解することについて深く考察する。</p> <p>【キーワード】共感するセンス・表現するセンス・観察の道具・ヴァルネラヴィリティ</p> <p>【学習の課題】他者との〈出会い〉や〈共感〉について、各自が考えたことについて小レポートを作成する。</p> <p>【参考文献】西平直『教育人間学のために』、東京大学出版会、2005。</p> <p>【学習する上での留意点】自らの体験をもとに、人が人を理解することについて深く考察する姿勢が求められる。</p>
15. テーマ	ふりがえりと総括
	<p>【学習の目標】本講義のふりがえりとまとめを行う。</p> <p>【学習の内容】前半では、各自が作成した期末レポートの発表を中心に行い、後半でまとめを行う。</p> <p>【キーワード】発表を通じたふりがえりによる学びの深化</p> <p>【学習の課題】期末レポート課題を発表すること。</p> <p>【参考文献】特になし</p> <p>【学習する上での留意点】受講生各自の発表を通して、本講義で学んだことをふりがえりながら、各自の探究へと深化させる姿勢が求められる。</p>